

糖尿病黄斑浮腫に対して、現在行われている主な治療法は以下のものがあります。

○抗 VEGF 薬治療

糖尿病網膜症に伴う糖尿病黄斑浮腫には、VEGF という物質が関与しています。そのため VEGF のはたらきを抑えるお薬を目に注射します。

○ステロイド薬治療

ステロイド薬には炎症を抑える作用があります。そのため、ステロイド薬を目に注射して、黄斑のむくみを抑えるようにします。

○レーザー光凝固術

①直接光凝固

血管にできたコブや血液成分がもれだしている血管にレーザー光線をあて、焼き固めます。

②格子状凝固

むくみのあるところに、格子状にレーザー光線をあて、むくみを改善します。

○硝子体手術

網膜剥離や硝子体出血がおこっている場合に行われる手術です。眼の中の出血を止め、異常な組織を取り除いたり、はがれた網膜を元に戻したりします。

<抗 VEGF 薬について>

どちらの病気にもでてきた抗 VEGF 薬治療ですが、月一回の注射をすることが基本で状態が安定するまで注射をします。黄斑浮腫がひいても再発することも多く、担当医と相談しながら症状に応じて注射します。今までの抗 VEGF 薬以外の治療は無効な症例もありました。新しい治療として抗 VEGF 抗体の注射が使われるようになり、いままで視力の回復が期待できなかった症例にも有効な症例が多くみられます。

偕行会城西病院では各種レーザー治療や抗 VEGF 抗体の注射をはじめ、透視科と連携して入院での白内障手術を行っています。

目でご心配なことがございましたらご相談ください。